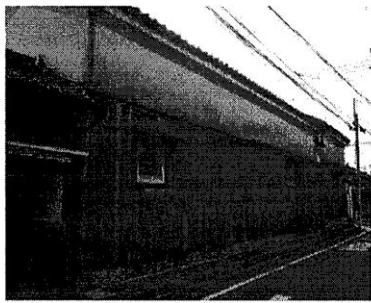


古堤街道を往く⑥ 「古堤街道の風景」東諸福に残る往時の面影

諸福天満宮を後にして坂を登り街道に戻ると、道端に「天照大神宮」と刻まれた燈籠が立っています。江戸時代後期の天保2年(1831)製のもので、当時流行した伊勢神宮への集団参拝「おかげ参り」を記念して作られた「おかげ燈籠」です。(市内に8基立つおかげ燈籠とおかげ参りについては別の機会に改めて紹介します)。おかげ燈籠の横には、大阪・京都・奈良・野崎などの行き先と方向を示した明治2年(1869)製の道標も立っています。



諸福2丁目の段蔵



おかげ燈籠と道標

ここから南に向かうと、寝屋川に架かる橋に至ります。かつて寝屋川に細長い砂州が浮かんでいましたが、昭和47年(1972)の大東水害の後、河川改修によって姿を消しました。砂州には戎橋と大黒橋という二つの橋が架かっていましたが、現在は両者の名前を合わせた戎大黒橋が両岸を結んでいます。

再び街道に戻り東へ300メートルほど進むと、街道を両側から挟む形で諸福墓地があります。墓地には地元の人々の墓と並んで村相撲の早碇部屋の力士の墓もあります。次回は、江戸から明治にかけて盛んだった河内相撲について紹介します。(生涯学習課)



西側から見た戎大黒橋

古堤街道を往く⑦ 「諸福に残る河内相撲の痕跡」

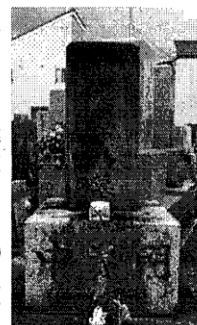
意外かもしれませんが、河内は古くから相撲が盛んな地でした。各地の墓地では地元出身の力士たちの墓を見ることが出来ます。古堤街道沿いの諸福墓地にも、当地で活躍した早碇部屋の力士の墓があります。

江戸時代以来、河内の村々では素人仲間の相撲部屋が作られ、明治のころには東組・西組・東中組・北中組・中組の5つの相撲組に属するようになりました。大東市域には、諸福・太子田・八箇新田を本拠とする早碇部屋と、水野・赤井・三箇・野崎・平野屋・寺川・中垣内を本拠とする日の出山部屋があり、いずれも東中組に属していました。それぞれの相撲部屋では、頭取(親方)のもとで弟子たちが日ごろから稽古に励み、秋祭りに行われる夜相撲などで勝負を競い合いました。

往時の相撲興行のにぎわいは、江戸時代後期に作られた「河内名所図会」でも紹介されています。また、力士たちはその腕力を生かし、角ノ堂浜での船積みなど相撲以外の場面でも活躍していたそうです。



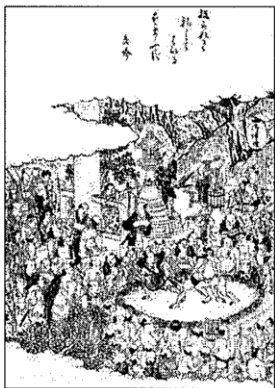
諸福天満宮の力石



力士・早碇幸八の墓(諸福墓地)

河内での相撲興行は昭和50年代ごろには行われなくなりましたが、現在も各地の神社や個人宅に化粧回しや板番付、興行の際に奉納された絵馬などゆかりの品が伝わっています。以前小欄で紹介した諸福天満宮の境内にも、力士の稽古に用いられた力石が残されています。

諸福墓地のすぐ東側には、寝屋川に架かる大東大橋があります(諸福中垣内線として平成16年に建設)。橋の高架下を通り抜けると、太子田地区に入ります。次回からは太子田の旧跡を紹介していきます。(生涯学習課)



「河内名所図会」の枚岡神社(現東大阪市)での相撲興行